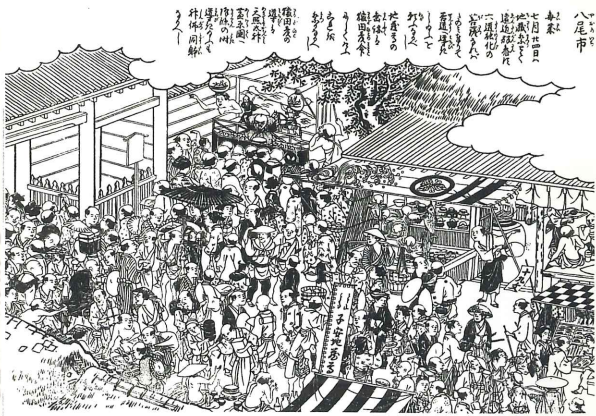


八尾の歴史



- 旧分国では河内国に属する。弥生時代より農耕が盛んであった。飛鳥時代は、物部氏の勢力圏下にあったが、物部守屋のときに聖徳太子との敗戦により滅亡した。結果、仏教は日本国において急速に広まることとなる。
- 戦国時代になり、久宝寺御坊(顕証寺)や萱振御坊(恵光寺)を中心に寺内町が形成される。後に浄土真宗の東西分派を発端とし、八尾御坊(八尾別院)を中心とした八尾寺内町が創設され、現在の八尾市発展の基となる。
- 江戸時代中期になると、大和川付け替え工事が行われ、新規農用地の開拓が進む。川床跡の砂地は木綿栽培に適し、大坂という消費地が近かったため、木綿の栽培や紡績が盛んになり、全国でも有数の裕福な農村となった。
- しかしながら明治以降は政府の方針もあり、外国産の安い綿花の輸入に押され、八尾の綿花栽培は大正末期までに急速に衰えていった。その後は綿を生産していた農家や工場がブラシ生産に活路を見出し、いわゆる地場産業へと移り変わっていった。

主な年中行事

1月1日~5日	修正会
3月中旬	春季彼岸会法要
5月11・12日	開基会法要
8月14・15日	盂蘭盆会
9月中旬	秋季彼岸会法要
12月5日~7日	報恩講

定例法話

開基教如上人御命日法話

5日 午後2時御始

宗祖親鸞聖人御逮夜法話

27日 午後2時御始

どなたでもお参り頂けます



真宗大谷派 八尾別院 大信寺

〒581-0003 大阪府八尾市本町4丁目2-48

TEL 072-922-2724 FAX 072-923-8409

【アクセス】

近鉄八尾駅西出口より西へ約100m、もとまち通り商店街からさのかわ北商店街に抜け、ごぼう商店街へ、イオンの裏。

真宗大谷派

八尾別院
大信寺

大信寺の沿革

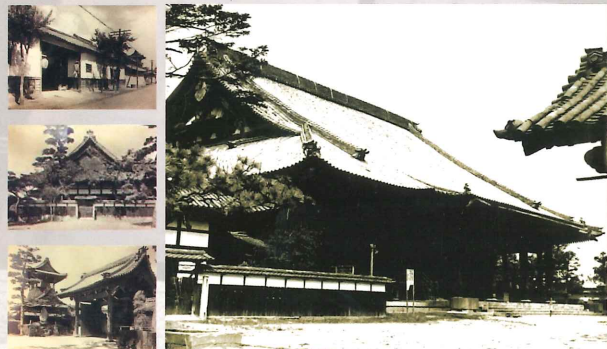
- 八尾別院の歴史は古く、慶長12年(1607)、徳川家康より寄進された土地に本願寺第十二世教如上人が「大信寺」として開創したのが始まりとされています。

教如上人は東西分派の中心人物であり、大谷派の派祖でもあります。以後、八尾別院は江戸時代を通じて、一如上人(後の大谷派十六代門首)等、本願寺住職の兄弟・子弟である連枝が住職をつとめ河内中南地域の門徒教化の中心的な役割を果たし、ながく「御坊さん」と親しまれてきました。

- 八尾寺内町的发展とともに、万治3年(1660)現在の地へ御坊を移転し、七堂伽藍からなる巨大な堂宇が整備されました。(表紙絵図)本堂はその後、天明8年(1788)に京都でおきた大火災によって東本願寺が消失したため、本山の御影堂として移建されることになり、約10年間東本願寺の御影堂の役を勤め、その後、八尾に移築、再建されました。

- しかし昭和28年(1953)3月、白蟻の被害により本堂屋根が突然崩れ落ちました。以後、対面所を仮本堂としましたが、本堂復興を願う声が強くなり、昭和41年(1966)現在の本堂が完成、翌年5月に大谷光暢門首(当時)の御親修により落慶法要と宗祖親鸞聖人七百回御遠忌法要が厳修されました。

なお、旧御堂は麻布山善福寺(東京都)へ、山門・鐘楼堂は桑名別院本統寺(三重県)へとそれぞれ移築され、当時の面影を偲ばせています。



宗祖七百五十回御遠忌法要

2014年4月18日~20日には大谷暢顕御門首御親修により、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が厳修されました。



年中行事

報恩講や春秋両彼岸を始めとした年中行事以外にも、毎朝7時から御始めの晨朝勤行や毎月2回の定例法話、春夏の仏教講座等、数多くの教化事業が崇敬寺院やご門徒のご協力を得て開催しています。



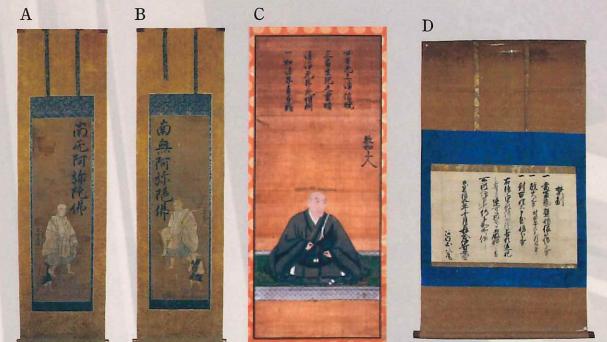
こどもの集い

春はお釈迦様の誕生を祝う花まつりを開催し、誕生仏を白い象にお乗せして門前の商店街を練り歩きます。夏にはお勤めの練習や花火大会をするなど、大勢の子ども達が境内を賑わせています。



宝物の紹介

八尾別院は、空襲や火災に遭うことが無かったため、数々の御消息や教如上人筆の御名号等、多くの法宝物が残されています。なお、それらの法宝物の一部は八尾別院報恩講に合わせて一般公開をしています。



A) 親鸞聖人配流御影(慶長9年1604年) C) 教如上人御影
B) 法然上人配流御影(慶長9年1604年) D) 板倉重勝禁制(慶長19年1614年)